

区民会議明日のコミュニティ部会摘録

日 時 平成18年12月6日(月) 18時~20時

場 所 宮前区役所第4会議室

出席者 宇賀神部会長、川島委員、鈴木和子委員、鈴木恵子委員、高木委員、松井委員、三谷委員、目代委員、

オブザーバー 小林委員長、永野副委員長

事務局 原企画調整担当主幹、中山同主査、東同主査、成沢職員

開会

事務局

情報公開について

経緯説明

- ・本部会は、高齢者福祉、子どもの各部会討議、及び防犯についての全体討議の中で、共通の問題意識として出てきたコミュニティ形成、及び全体のビジョン、全体でどのようなまちづくりを目指すかということを検討するために設置された新部会である。
- ・他の部会は緊急的な課題が議論の対象であり、年度中に解決策を提案することが目標とされているが、この新部会は、早いに越したことはないが、委員の任期中に一定の方向性を見出せればと考えている。
- ・部会長については事前の話し合いで宇賀神氏に決まっている。
- ・本日は部会の名称、方向性について、最低限合意したい。活発な議論をお願いいたします。

事務連絡

- ・宮前区の都市マスタープランの素案ができ、現在区役所の1階で縦覧可能になっている。
- ・今月22日に区民会議の第3回の開始を予定している。
- ・新委員として、商店街連合会を代表し、川島委員が就任。本部会にご参加いただいている。
- ・今月の市政便り区版にも掲載されているが、公募委員1名の解任に伴い、来年早々に新たに公募を行う。2月頃から新たな委員に加わっていただく予定である。

資料説明

各委員から事前に提出された議論ペーパー。

議事

(1) 部会における審議事項について

(2) 部会名称について

宇賀神 本日は二つの審議事項がある。この部会の方向性と名称についてである。来る22日の区民会議で部会名くらいは報告したい。二つを分けて議論するのではなく、議論の中で方向性が出てくれば、名称は自然と決まるのかなと思っている。

まず宿題となっていた議論ペーパーを元に、各委員に記述内容と新部会への思いを語っていただき、議論のきっかけとしたい。

以下、議論ペーパーの内容に沿った、各委員の説明の要点。資料の内容をそのまま読み上げている場合については記述を省略する。(詳細は別紙資料参照)

議論ペーパー振り返り

宇賀神委員

- ・新部会は「ガーデン区みやまえ」を底辺から支える、「環境資源再生部会」というイメージをもっている。宮前区は美しい場所も多いが、それ以外の場所との格差が広がっているのではないかと。
- ・公園に手を加えることを通じて、コミュニティを深めていってはどうか。
- ・公園施設の老朽化にも対応した住民参加による公園再生という思い。

鈴木恵子委員

- ・ 地域のコミュニティの再生が大きな問題。人と人とのつながりを大事にしたい。
- ・ 転出入が多い宮前区の中で、宮前区にいてよかったと思えるまちづくりをやりたい。
- ・ 近所付き合いが希薄、世代間の交流が少ない。などの現状がある。
- ・ 集合住宅住民の実態把握が難しい中、災害弱者などの問題も深刻である。
- ・ 地域の実態をまず知ること、人と人とのつなぎを具体的な方法で考えていきたい。

鈴木和子委員

- ・ 宮前平の駅には何の特徴もない。駅から区役所までの道を楽しみながら歩けるように何かできないか。坂が嫌という人も多い。駅周辺に花を飾ったり、何かシンボルができないか。
- ・ 区民祭りは大きなコミュニティの場だ。表示の改善など、もっとこうしたらいいのではないかという声も出ている。
- ・ 私の宮前区のイメージはコスモス。コスモスでアピールしてみたい。
- ・ 小学生が描いた清水台の壁画はすばらしい。

高木委員

- ・ コミュニティ部会として、住環境豊かなまちづくり、地域コミュニティを深めるまちづくりを目指したい。
- ・ 新しい住民との交流や世代間交流が少なく、区民の問題意識に差がある。老人会活動の弱体化、子育ての相談場所が限定、祭りのマンネリ化などが問題となっている。
- ・ 住民による自主活動意欲は他区より強い。例えば、自治会向けの事業を募集して競わせてはどうか。地域自慢展の開催や、区民参加型の区民祭なども面白い。
- ・ 地域格差や自治会の活性化を考えたとき、自治会と小学校区との連携が鍵になるのではないか。
- ・ まちづくりに関する提案や白書はいくつか出されているが、それがうまく活用されていない面がある。
- ・ まちづくり協議会の機能、ボランティア支援制度の実情、連合自治会の実態など把握したい。
- ・ 市民館ので困世世代むけの事業の展開、乳幼児訪問指導の増強、保険対象者以外の高齢者支援、などを出せば宮前区の特徴になるのではないか。

永野委員

- ・ 子どもからお年寄りまで笑顔と心がつながる宮前区。コミュニティを中心に検討したい。
- ・ 皆でそれぞれ得意技をはっきし、顔がみえ、多世代、多様な人々がつながるようにしたい。
- ・ 宮前区には文化施設やコミュニティ施設が足りない。既存の活動団体は担い手が不足する傾向などがあり、活動団体の横の連携ができていない。
- ・ 宮前区は住民の平均年齢は低いが高齢化してきている。新住民は都内への通勤者が多く、比較的個人意識や文化意識が高い。
- ・ 解決すべき課題はコミュニティに絞ってみた。自立した個人がどういうふうにコミュニティをつくっていくかを考える時、従来と同じ手法だけではうまくいかないのではないか。
- ・ 解決策は顔の見える関係の構築だ。世代間交流の機会をふやし、より近くでイベントを行う。子ども文化センターと老人憩いの家の協働事業など。
- ・ 起伏の激しい地形を持つ宮前区では、ミニバスによるコミュニティ交通システムを導入しなければ、高齢化には対応できないのではないか。

松井委員

- ・ 「ガーデン区」とは居住空間環境の良いまちだと思っている。
- ・ 他の区にない特徴として緑、多摩丘陵などがある。山坂が多いがゆえに景観のよいまちである。
- ・ 地域資源を発掘し、活用していくことが課題の解決につながるだろう。
- ・ 解決策について、ペーパーでは中学校区ごとと書いたが、小学校区ごとでも良い。
- ・ 地域の世話役として支援ができるような、まちづくり協議会にしていきたい。
- ・ 市民生活エンジョイカレッジを提案したい。

三谷委員

- ・ 宮前区の最大の特徴は住宅都市であるということ。快適空間都市が議論の中心になるのではないか。
- ・ 昼夜間人口の差が他区と比較しても大きい。区成立の57年から改めて振り返って、課題を明らかにするべきではないか。

- ・ 解決には、目標の明確化が重要。まずまちの実態を知ることだ。他区との差異分析、ライフスタイル分析など多角的な分析が必要だ。
- ・ まちには継続的な視点が必要であり、長期的な視野にたった計画が必要だ。抽象的な表現になるが、一度決めた計画に対しても、引き継いでいく部分と変えていく部分の両方、計画のローリングが必要であり、目先のことと将来を同時に明確化していくべきだ。

目代委員（議論ペーパーなし）

- ・ 日頃若いお母さんたちと活動している。宮前区平均年齢が36歳と若いまちだ。新興住宅地もあれば、田園都市線開通前からの地域での農業の開拓者もいる。
- ・ 宮前区は土地がすごい。公園などに花を植えても、非常に成長が良い。
- ・ 景観、緑を大切に、美しいまちづくりができると良い。
- ・ 新しい住民の若い世代と昔から宮前に住んでいる人が、いかに共存して住みやすいまちをつくるか、そのためには町会の活性化が鍵ではないか。
- ・ 自分の地域だけでなく、他の町会の活動、他の区の活動を知ること課題解決に近づく。
- ・ 宮前区には文化財も多いのに、観光事業所が無い。歴史あるまちの情報発信なども考えたい。

川島委員（議論ペーパーなし）

- ・ 30代の頃に宮前に移り住んできた住民層が高齢化してきた。商店街のお店のお客の高齢化も実感している。
- ・ 一番の課題はお年寄りに自宅に籠らずに外に出てきてもらうこと。様々な教室など開催されているが、まだまだ機会が限られている。
- ・ 私は太極拳をやっており、若い人より歩くペースが早いくらい元気だ。何か活動をしていくことは大切だ。
- ・ ふらっときてしゃべれて、お茶できるような場所、たまり場を地域につくる。これがうまくいけば、地域の活動もそこから自然発生的におきてくるのではないか。いろいろな人が気楽に集まれる場所をつくりたい。外に出て行ってもつまらないまちではいけない。
- ・ まず目標を定めて絞っていきながら、机上の空論にしないで、実際に取り組むことだ。

小林委員（議論ペーパーなし）

- ・ 現状や課題は各委員のご指摘のとおりだと思う。全体の将来像に関する話と地域のコミュニティの形成に関する話があったと思うが、両方同時進行してもいいのではないかな。
- ・ 区民会議としての成果、実がほしい。
- ・ 区づくりプランなど、多くの人に参加してできた既存の計画やプラン、提案を無視せずに、充分参考にして、その延長線上に立って、検討を進めていくべきだ。例えば「ガーデン区」は前提のひとつとなるだろう。

意見交換

三谷委員 先進地では、商店街などが法人化して責任ある団体として、地域のまちづくりのエネルギーの元となっている。宮前区では商店街が法人化されているところがまだないのではないかな。自治会はいくまで任意団体であり、限界もあるのではないかな。

永野委員 将来像については今までのプランを踏まえてということによいと思う。「地域コミュニティ」が鍵となることは、ほとんどの委員が共通で取り上げていた。ただ、問題の捉え方や表現が若干異なるので、そこをまず整理して共通認識を持つてはどうか。その上で具体的な解決策になるのではないかな。ただ議論の交換ばかりしても仕方がない。

川島委員 区に「会議室を開放してほしい」とよく言っている。地域に気軽に集える場所がない。保健所などの施設も一般の人が使えない。まず場の確保からはじめないといけなのではないかな。町会も一生懸命活動している所もあるが、場所がないのでは仕方がない。そこから解決していかないと、活性化が進まない。

小林委員 区民会議の性格として区民からあがってきた要望をまとめて、区長に要望、提言して、実現させていくということがある。「コミュニティ」が、鍵となることは、集約できたのではないかな。世代間や新住民と旧住民の交流など、まずコミュニティについてやりましょうということを掲げ、将来のことを考えながら絞っていけばいいのではないかな。

宇賀神委員 「コミュニティ」が課題ということが共通認識、そこに絞って進めるということによいかな。一同 結構です。

宇賀神 将来像も頭の中に入れながら、宮前区のコミュニティの活性化を部会の方向性として議論していきましょう。

鈴木和子委員 一言にコミュニティと言っても、その内容は？

宇賀神委員 本日そこまで議論が進められるかどうかはわからないが、場所であったり、団体であったりいろいろな問題があるだろう。方向性がきまれば、どのようなデータを集めたらいいのかなど見えてくると思う。

目代委員 コミュニティだけでなく、「地域」と入っていたほうがいいのではないかな。

松井委員 各委員から具体的な解決策もいくつか出ているので、まず議論ペーパーの整理を一度すると良いのではないかな。皆さんのシートの記述をつなげているいるできそうだな。

コミュニティを軸にして具体的な施策を考えなければならない。公園も人の住民が集まれる広場のひとつとして重要だ。こども文化センターや老人いこいの家の活用も同様である。

川島委員 場所があるということが知ればいい。段々と話し相手がいなくなり、家に籠ってしまうのが問題だ。

松井委員 場所と人と活動があるが、場所があれば、そこからいろいろ出てくる。やはり場所は大事だ。

鈴木恵子 いこいの家に行くことを嫌がる高齢者もいる。そういう方がどこかで地域でつながっていき場を探したい。私の活動団体でも、いろいろな場所を活動の場に使うようにしている。学校や公園、空き店舗、生協の二階のコミュニティ、個人の場所など、使えそうな場所は全て使う。その中で、地域で考えていくことが必要だ。

高木委員 現状と課題と解決策についていろいろな意見がでたが、このグループ化や集約ができれば、問題点も具体的にみえてくるのではないかな。シニアのマンパワーを活かしたい。シートの集約を事務局にお願いできないかな。

三谷委員 なぜ「コミュニティ」という言葉を選択したのか、まず議論しなければならない。コミュニティは、実にさりとした言葉でその中にもいろいろな意味ある。環境も福祉もコミュニティという言葉で語られる。我々がコミュニティという言葉を選んだ必要性が、共通認識の中であったのではないかな。現状を分析しないと、目標が出てない。

川島委員 皆さんの意見を集約して分析していけば、自然と出てくるだろう。

宇賀神委員 今回の資料はみなさんが書いたままの資料だ。

高木委員 整理すれば、「コミュニティ」がでてきた理由も見えてくるだろう。

川島委員 各委員が言っていることはすごく近いことだと感じている。

鈴木恵子委員 宮前はバラバラ？だからなかなか、まとまらないところがある。

鈴木和子委員 やはりまとまる場所がほしい。

高木委員 問題意識やエネルギーはあるが、それがつながっていないのではないかな。

目代委員 安全・安心がコミュニティのキーポイントになるのではないかな。地域を守るということが芯にないと生活ができない。昔の人が地域をつくっていったのも、そこからではないかな。「コミュニティ」という言葉がない頃からそれはあった。人はつながりをもたないと生きていけないし、そのことにより、より良い環境ができていく。つながりをもう一度取り戻そう。

鈴木和子委員 各自の家庭の中で、本当にコミュニティができていいのか、とも考えてしまう。さらりと言うが、非常に「コミュニティ」は深い言葉だ。

宇賀神委員 事務協にぜひお手伝いをいただいて、整理をしたい。

松井委員 簡条書きでポストイットにして、KJ法のようなやり方で整理をしてもらえると、、、

事務局 欠席の方からもメモをいただいた上で整理したい。事務局での作業も整理できると思っています。

部会名称について

事務局 「コミュニティ」部会ということになりそうだが、「地域コミュニティ」と言えば、もう少し限定されてくるかなと感じている。

松井委員 「環境資源再生部会」はとても意味がわかりやすいが、答えになってしまっている？

高木委員 意味が限定されてしまう。

鈴木恵子委員 もう少し広い視野で考えたい。

三谷委員 「明日のコミュニティ」など未来につながる表現はいかがでしょうか？

高木委員 夢がある。「明日のコミュニティ」はいいかもしれない。

鈴木和子委員 希望がある。何か楽しくなりそう。

鈴木恵子委員 コミュニティ、豊かな明日を目指して。

小林委員 短い方が良いだろう。

高木委員 悪い方に想像する人はいないのではないかと。「明日」の言葉には希望を感じる。

宇賀神委員 名称としてほぼ決まりでしょうか？

目代委員 ぱっと言うときに少し言いにくくはないだろうか？思いは伝わるが。

川島委員 「地域コミュニティ」というと少し固い感じになる。明日のコミュニティは良い。

宇賀神委員 これまでの議論と「明日のコミュニティ」はすごく近い気がする。名称はこれでいきましょうか？

鈴木恵子委員 確かにさらっとは言いにくいですが、どこかにアクセントをつけて、、、

宇賀神委員 略して「明日コミ」？ 名称は「明日のコミュニティ」でいいでしょうか？

(一同拍手)

再び意見交換

小林委員 先ほど自治会の話題が出たが、自治会にむけて、区民会議としてどんなことができるのか？

鈴木和子 呼びかけはできると思う。

川島委員 あり方を提案できるのではないかと。

高木委員 「自治会活性化政策」と言っても、「何言ってるんだ？」と「ふざけるな」と言われてしまうかもしれない。

目代委員 提案しても、「じゃあ、お前たちやれよ」と言われてしまわないように。

松井委員 ただ提案ではだめ。何かしかけが必要。にこにこして、楽しんで参加できるように。

川島委員 何かつくりだして、こういうことをやったから参加していただだけませんか？とリーダーの方々に呼びかける。呼びかけというのが一番いいだろう。

鈴木和子 楽しみの場の後に勉強会をすとか、、、

松井委員 議論シートの中にたくさん出てきているのではないかと。可能性は感じる。

鈴木和子 松井委員もおっしゃっていた縄文時代からの文化。グループはたくさんある。うちの団体で写真コンテストをやったら、素晴らしい作品がたくさんできた。そういうコミュニティもある。

松井委員 地域を愛したり、誇りを持つために何をしたらいいのか。地域をまず知らなければならない。それは現在だけでなく、歴史も知れば、更に愛せる。そのためには、歩いたり、資料をつくる。

高木委員 宮前区ガイドマップという資料があり、最近内容も新しくなったが、あれを活用する政策がない。歩くコースまで載っているが、勝手に歩いてくれという感じ。資料はいい物がけっこうあるが、それをうまく使っていくシステムがない。

永野委員 宮前区ガイドマップは公募の委員会で作ったが、マップを作った人たちと実際に歩いている人たちのつながりがない。私の団体では4つの地域からそれぞれ歩いてある公園に集まり、そこで子供たちに遊びを教える活動をやっている。

鈴木和子 ここにこんな素晴らしいものがある。これを活かした歩くイベントをやる。

高木委員 例えば定期的にそのコースを歩くようなシステムをつくる。

三谷委員 町会連合会というのは宮前区にはあるのか。

高木委員 宮前地区と向ヶ丘地区と連合自治会が二つある。向ヶ丘地区で43、宮前で23。宮前のほうが世帯的には多い。

永野委員 地域的には組織されているが、空白地帯がたくさんある。参加していない人が多く、組織力がない。

三谷委員 集合住宅が多く、加盟費を払わなかったり、活動に参加しない方が多いという話を聞いた。

高木委員 町会費は100円~500円、600円程度。やっていることというのと、市制便りを配っているくらい。

目代委員 若いお母さんたちにはとにかく町会に入ってくれと言っている。町会に入れば、回覧を通じていろいろ情報が入ってくることを皆知らない。引っ越してきた時に、町会の入り方が伝わっていない。そこまで不動産がやってくれない。

松井委員 そこまでやるべきではないかと。

永野委員 新宿の久保地区は外国人が多いが、一度ゴミの出し方などを徹底的に通知したら、大分改善されたと聞いた。

目代 そういうコミュニケーションがやはりつながりだと思ふ。

宇賀神部会長 問題は自治会に入っていない人。

松井委員 若い人で、単身で、転居してくる人はまず町会に入らない。大家さんや不動産がもっとやってもいいのではないかと。みんなゴミを捨てるのだし、数百円の会費なのだから。

事務局 町内会組織を代表して区民会議の委員になっている方が二名いる。この部会には参加していないが、機会があれば、呼び寄せていろいろ聞くのもいいかもしれない。

小林委員 町会に対し何か強制はなかなかできない。

高木委員 あくまでお願いの形になるだろう。

松井委員 自治会の大きさを変えるなど、組織に手を入れることはできない。だからこそ中学校区でのコミュニティを自域と学校が一緒になって考えることが目的だ。

永野委員 校長が代わったとたんに、学校が、がらっと変わってしまうことがある。

松井委員 地域も学校だけを問題視し、学校を突上げるために、先生を評価しようというようなことが出てくる傾向がある。そうすると学校も余計に地域に対して閉じてしまう。せっかく組織はあっても運用がうまくできていない。

小林委員 中学校区単位の地域教育会議という設定ではうまく機能しないのではないかと。小学校区単位で、現役のPTAとOBが連携していくような形がいいのではないかと。

高木委員 組織はあっても、うまく機能していないところが本当に多い。それをうまく機能させるためのしかけをここで議論してもいいのではないかと。出会いはしても、その後の方法論がない。活性化のためのプログラムづくりをやっていこう。市民館も、もっと活用していく。今の市民館は決まった人しか使わない場所になっている。既存のものにはけっこういいものがある。行政とのつながりも考えなければならぬ。

松井委員 制度はあるが活用できない。上手に動かすには企画やテクニックが必要だが、企画を練る方向になかなか向いていかない。

高木委員 自治会も一生懸命やっているが、どうにもまわっていかないのは、そこに合ったプログラムがないのではないかと。

宇賀神部会長 自治会あてにプログラムを提案しても、なかなか聞いてくれないのではないかと。「やりなさい」ではなく、「一緒にやりませんか」というスタイルでないのと違ってこない。

松井委員 やりなさいといってもできない。負担になってしまう。

高木委員 まちかど功労賞というのが宮前区にはあり、個人でも団体でも対象になるが、これももっと活かさないかと。もっとうまく機能すればということはある。（現在廃止？）

鈴木和子委員 ある自治会と自治会で、合同行事をしたが、お祝い金の分担でもめてやめてしまった。

永野委員 従来のアジア型の農村共同体に、新しいアメリカ型の個人主義の人たちが入ってきて、そこでどうコミュニティをつくっていくかが、まだうまくいっていない。

三谷委員 会社を辞めた人がコミュニティに入っていこうとしてもなかなか溶け込めない、受け入れてもらえないことがある。会社で偉かった人は、「掲示板にポスターを貼って」などと頼まれて、「なんで俺がこんなことを」と思うことがある。一兵卒になることができない。

宇賀神部会長 シニアパワーを使うというところは、区長も大切にしているところ。

三谷委員 自治会の幹部はかなり高齢化しているのではないかと。

宇賀神部会長 地域によるが、年齢が高いことがほとんどである。

高木委員 継承しているだけで、新しい事業がほとんどない町会がほとんどだ。

小林委員 雑談の中にもかなりポイントとなる意見、指摘が出た。次回は自治会の方に呼びかけをしてはどうか。

目代委員 町会で、高齢者部会など、分科会ができていような町会は宮前にあるのでしょうか？

高木委員 私の地区では、文化体育・防犯防災など部会が3つあり、副会長が3人いる。

永野委員 私の地区では、婦人部が交通安全母の会、環境衛生、婦人消防隊。男のほうは、防犯、交通、青少年、広報などに分かれている。子ども会、老人会は町会組織の外にある。町名毎の活動と、分野別の活動の両方が発展すれば、活性化するのではないかと。

まとめ、今後の進め方等

宇賀神

- ・ 名称は「明日のコミュニティ」ということで決定した。
- ・ 方向性についてはこの名に沿って、みなさんが書いていただいた議題シートの内容や今日の意見

の整理をやっていこうということではないか。事務局で現状の整理をお願いしたい。その上で次回、課題について、もう一度話し合うということできたい。

- ・ 一年でおわる部会ではないと聞いているので、全体のスケジュール設定は、今回しないが、次回の日程については決めたい。1月中旬～下旬でどうでしょうか？
- ・ 22日の報告については、本日の議論の要約を報告する。

次回日程

協議の結果 1月24日(水) 18:00～に決定。

(以上)